

## シロイチモジヨトウの発生と薬剤防除について

シロイチモジヨトウはネギ、キャベツ、ハクサイ、レタスなどの野菜やダイズ、花き類などを加害するハスモンヨトウやヨトウガと同類の広食性の害虫です。本県ではネギ、キャベツ、レタスやショウガなどで被害が確認されていますが、特に近年はネギで被害の増加する傾向がみられます。

県病害虫防除所の令和4年 病害虫発生予報9月号「防除所レポート」によると、本年8月第4半旬までにおけるフェロモントラップへの総誘殺数は、つくば市で本年を含む過去11年中1位と多くなっており、県南、県西地域のダイズやネギの調査圃場でも確認し、例年、秋にかけて発生が増加しますので、今後の発生に注意するよう呼びかけています。

### <生態と被害>

成虫は10~15mmの蛾で、葉裏などに卵を卵塊で産みつけ、卵塊の表面をハスモンヨトウと同様に灰褐色の鱗毛で覆います。ふ化した幼虫は集団で群生して食害するため、卵塊のあった葉を中心に白化葉が目立ちます。その後、齢期が進むと分散して葉の食害や葉身の内部に侵入して食害します。なお、ネギではふ化した幼虫が葉身内に食入し、中から表皮を残して葉肉を食害します。ネギが食害されると、虫糞が葉身内の底部に堆積するため、商品価値が損なわれます。

本種の幼虫の特徴としては、胴部の側面に明瞭な白線があります。幼虫の体色は、集団で生息する若齢期には黄緑色ですが、中齢期以降は淡緑色から黒褐色など様々で、同じ種類とは思えないほど変異に富みます。老熟幼虫の体長は30mm程度で、ハスモンヨトウやヨトウガよりかなり小さいです。

本県での発生生態については、まだ十分に究明されていませんが、例年、5月頃から成虫の誘引が認められ、9月にピークを迎えます。

### <防除対策>

1. 施設栽培においては、成虫の侵入を防ぐため、開口部に防虫ネットを展張して侵入を阻止します。
2. 圃場をよく観察して、卵塊やふ化直後の幼虫の集団を発見したら、早急に捕獲、殺滅します。
3. 幼虫の齢期が進むほど薬剤の防除効果が低下する傾向があり、また、ネギなどでは葉身内に食入する前の若齢幼虫のうちに薬剤防除を徹底します。
4. 結球する葉菜類では、結球内に幼虫が食入すると防除が困難になるため、結球始期前後の薬剤防除を徹底します。
5. 各作物における、シロイチモジヨトウを対象とした農薬登録が少ないため、県病害虫防除所が行った**主要薬剤のシロイチモジヨトウ3齢幼虫に対する殺虫効果の試験結果**（令和3年度 病害虫発生予報4月号 防除所レポートより）を下記に記載しますので、各作物における農薬登録の適用条件に注意して参考にしてください。
6. 薬剤散布では、**作物ごとの収穫前日数に十分注意**し、薬液が葉裏や株元にも十分かかるよう丁寧に散布します。散布後は防除効果を確認するとともに、薬剤抵抗性の発達を抑制するため、RACコード分類の異なる薬剤でローテーション防除します。

### シロイチモジヨトウにおける主要薬剤の殺虫効果について

令和3年 病害虫発生予報4月号 防除所レポートより抜粋

令和2年8~10月に県内4地点からシロイチモジヨトウ幼虫を採集し、累代飼育した3齢幼虫を供試して、常用濃度に希釈した14薬剤（下記の結果を参照）の薬液に浸漬して風乾したキャベツ葉片を餌として与え、殺虫効果を判定した。

その結果は、

1. **ディアナSC、アニキ乳剤、コテツフロアブル、トルネードエースDF、ベネビアOD、ヨーバルフロアブル、グレーシア乳剤**は、いずれの採集地点においても殺虫効果が高かった。**ディアナSC、アニキ乳剤、グレーシア乳剤**の3剤は、処理1日後から高い殺虫効果を示した。これら7剤は食害抑制効果も高かった。
2. プレオフロアブルは、採集地点によって殺虫効果に差が認められた。殺虫効果の認められた地点では、食害が抑制される傾向がみられた。
3. ハチハチ乳剤、アクセルフロアブル、プレバソソフロアブル5は、採集地点によって殺虫効果に差が認められた。これら3剤の食害は、殺虫効果の認められた地点においても、処理日数の経過に伴いやや増加する傾向がみられた。
4. アファーム乳剤、ゼンターリ顆粒水和剤、カスケード乳剤は、いずれの採集地点においても殺虫効果がやや低い~低く、食害抑制効果も低かった。  
(試験結果の詳細は、病害虫防除所の資料を参照してください)

### <今後の注意について>

西日本ではシロイチモジヨトウによる被害の発生が多く、主要薬剤に対する感受性の低下が懸念されています。また、本種に対する有効薬剤と、ハスモンヨトウやオオタバコガ、コナガ等のチョウ目害虫に対する薬剤の殺虫効果が異なる可能性もありますので、発生圃場における害虫の種類を正しく確認し、さらに、薬剤散布後の効果判定を必ず行って適切な防除に努めてください。

- 農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。
- 営農 NEWS は JA全農いばらきホームページでもご覧になれます。